

登米市内学校資料調査の成果について

大 平 聡

はじめに

2013年4月12日、登米市歴史博物館を訪問し、登米市内の小・中学校に保管されている学校資料の調査を提案したことに、登米市内学校資料調査は始まった。対応していただいた小野寺智哉学芸員は調査の必要性をご理解くださり、まず、教育長宛、資料調査の意義と方法を説明する文書を作り、教育長の了解を得てから、登米市歴史博物館と宮城学院女子大学人間文化学科大平ゼミとの共同事業として行方針を立てた。早速教育長宛、文書を作り⁽¹⁾、小野寺学芸員より教育委員会に届けていただいたところ、教育長の許可が下り、調査を行うことができることとなった。教育委員会からは、校長会で校長先生に直接説明する機会を与えられ、6月5日に開催された校長会で説明する機会を得た。この時、説明文書⁽²⁾を配布し、調査の目的、調査方法の概略を説明した上で、各学校におかれては、この際、普段整理の手がなかなか及ばない文書棚等の整理のお手伝いをご理解いただきたいと述べた。実際、文書置き場の整理をお手伝いすることになったケースが少なからずあった。

校長会での説明の後、小野寺学芸員が各学校に所蔵資料に関するアンケート調査を行って、その結果をお知らせくださった。これは調査日程を組む上で非常に役に立った。小学校22校、中学校10校という数の多さに加え、合

登米市内学校資料調査の成果について

併によって広域化した登米市内を効率的に回るため、あらかじめ資料の分量を知っておくことは不可欠のことである。これにより、半日調査、全日調査の区別を行った上で、移動距離を勘案し、訪問日程を組んで各学校に打診し、調査日程を確定していった。

調査は、第一に目録作成のための撮影を行い、次に、学校日誌の全頁撮影を行うこととした。学校日誌の全頁撮影は、当初は昭和14年度から昭和21年度の分を行うことを予定していたが、調査を始めると、明治・大正にさかのぼる日誌が多く残存していることがわかり、撮影機材も充実してきたので、昭和21年度以前の日誌すべてを全頁撮影する方針に切り替えることとした。校長会での説明を変更することになるので、各学校を訪問した際、方針の変更を伝え、御了承いただいたうえで、撮影を行った。目録作成後、各学校に目録とすべての撮影データを収めたディスクをお届けした。登米市歴史博物館には、目録と全撮影データを収めた外付けハードディスクをお届けした。以下、作成した目録に基づき、調査概要を学校ごとに記していくこととする。

(一) 登米市登米町教育資料館での資料整理と調査

登米市内での学校資料調査に取り組むきっかけとなったのは、その前年に行った登米市登米町教育資料館（旧登米小学校木造校舎）での資料整理作業と調査であった。まず、これについて述べることとする。

2012年2月14日、登米町教育資料館を見学した折、木造校舎東二階の資料展示室に学校日誌が展示されていることを知った。戦時中の日誌も含まれており、調査させていただきたいと受付の方に尋ねると、隣接する観光施設内のとよま振興公社を案内された。事務室を訪問し、趣旨を説明すると、一階の資料保管庫に充てられている教室を案内され、膨大な資料が保管されていることを確認した。しかし、資料の保管状況は必ずしも十分と言い難い状

登米市内学校資料調査の成果について

況であった。扉付きのラックに収められてはいるものの、棚にはほこりが積もり、史料にも埃がたまっている状態であった。そこで、調査をさせていただくかわりに、資料を保存封筒に収め、さらに所在がわかるような目録を作成すること、そのための資材と労力はすべて当方で提供する申し出を行った。応対いただいた方は、受け入れたいが、教育委員会の承諾を得る必要があるということで、早速、連絡をとっていただくこととした。教育資料館の資料は、生涯学習課文化財担当の所管となっていた。連絡をとっていただいってから、すぐ同課を訪問して趣旨を説明すると、教育長宛の説明文書を提出するようご指示をいただき、早速文書を作ってお届けした^③。

間もなく、許可をいただいたので、再度教育資料館を訪問し、改めて資料保管教室を見せていただいた。とにかく資料の数が膨大で、これまでのように保存封筒の上書きを現場で行うことは非効率で、あらかじめ大学で封筒の上書きを行っておくことが必要であると判断された。そこでとよま振興公社に目録はないかと尋ねると、かつて小学校から移管した時に作成された目録データがあるということで、早速その提供をお願いし、大学に持ち帰ってこの目録に従い、保存封筒の上書き作業を行った。そして年度が変わった4月から7月にかけて、10回にわたり、作業を行った。保存封筒への収納作業は始めの3回程の作業で完了した。その結果、目録には記録されているが、実物がない資料が何点かあることを確認した。また、展示室に展示されている資料のうち、劣化が顕著な資料は、展示室から引き下げていただくこととし、日誌の展示も、インク記載のものは表紙に置き換え、墨書きの日誌を広げるなど、一部展示の改善も行った。

残りの調査期間はその大部分を日誌の全頁撮影に充てた。登米小学校には、青年学校とその前身にあたる農業補習学校・青年訓練所の日誌も良好に残されていたため、全頁撮影に多くの時間を費やすこととなった。実は、教育資料館は東日本大震災で土壁に亀裂が入るなど、かなりの被害を受け、修

登米市内学校資料調査の成果について

復工事が行われることとなっていた。調査を修復工事が始まるまでに終了させる必要があり、かなり急いでの作業となった。幸い、工事が始まるまでに予定していた作業をすべて終わらせることができた。その後も、撮影したデータを用いて展示用パネルを作成し、とよま振興公社への提供を続けている。なお、撮影データはすべて、とよま振興公社に外付けハードディスクに入れて届けた。

この経験から、登米市内には、他にもまだ登米小学校ほどの規模はないにしろ、古い学校日誌を所蔵する学校があることが推測され、登米歴史博物館に登米市内の学校資料調査を提案することを思いついたのである。

(二) 登米市内小学校調査の成果

登米市内の22の小学校全校の調査を完了した。以下、学校ごとに、調査結果を略述する。詳細は、別添の各学校資料目録を参照されたい。

(1) 浅水小学校

日誌は、大正9年度以降のものが良好に残っている。ただし、大正9年から昭和26年までの日誌は、すべて浅部分校の日誌で、本校の分は残っていない。本校の分は、昭和35年度以降のものが残っている。

学籍関係文書（学籍簿、修・卒業台帳等）は、明治18年度以降のものがかなり良好に残っている。その中には、水越小学校、小嶋支校（分教場）のものが見え、学校の変遷を知る上で貴重である。

(2) 石越小学校

日誌は、本校の分が明治41年度のものから残っている。しかし、明治期の日誌は41年度の1冊のみで、大正期のものも2冊しか残っていない。昭和5年度から連続的に残っているが、昭和10年代の日誌は半分ほど失われ

登米市内学校資料調査の成果について

ている。注目されるのは、分校の日誌が多く残されていることで、赤谷分校・南郷分校・小谷地分校・黒山分校・東郷分校の日誌がある。大正期にさかのぼる分校が2校ある。沿革誌も、分校の分が保管されており、統合の際、本校に集積されたことがよくわかる。

学籍関係資料は、昭和初年のものから残っている。

注目される資料として、大正末期から昭和初年の「教授目録」がある。教育内容を具体的に知ることができる資料として重要である。

その他、特色ある資料として、明治29年と昭和10年の年号を記す棟札2点がある。

(3) 石森小学校

日誌は大正15年度以降のものが良好に残る。農業補習学校の日誌が含まれている。

学籍関係資料は、明治26年以降のものが非常に良好に残っている。

統合された小倉分校の資料として、沿革誌と昭和3・4年次の学籍簿があるだけである。

(4) 上沼小学校

戦時中にさかのぼる資料としては、学籍関係資料が残っているだけである。

日誌は戦後のものしかなく、昭和25年度のものをもっとも古い。

桜場小学校の資料としては、沿革誌が残っているだけである。

上沼小学校の資料として注目されるのが青い目の人形である。仙台市歴史民俗資料館の青い目の人形に関する調査報告を見ると、青い目の人形を受け入れた時期の学校日誌が紹介されているが、今回の調査では発見することができなかった。廃棄された可能性が高い。

(5) 加賀野小学校

日誌は戦時中にさかのぼるものはないが、昭和23年度以降の日誌は完存している。学校日誌はないが、沿革誌はよく整理され保管されている。

古い資料としては、明治35年度以降の卒業証書授与台帳、大正2年度以降の旧職員履歴書がある。

古い資料の点数は少ないが、明治43年11月から昭和28年に至る「視察簿」が残っていることは特筆に値する。「視察簿」は錦織小学校にも残されており、比較検討が期待される。

(6) 北方小学校

大正15年度以降の日誌が残っているが、昭和19年度まで9冊が残るのみで、昭和ひとけた年代は、昭和6年度のみである。昭和6年度の日誌は、小学校の日誌ではなく、農業補習学校の日誌である。農業補習学校の日誌はこの1冊のみである。学校日誌以外の日誌が残されていることが興味深い。昭和37年度以降の用務員日誌（昭和45年度まで）、昭和57年度以降の業務日誌、昭和51年度以降の警備日誌がある。他に、施設貸与日誌、給食日誌、公用車運転日誌がある。

学籍関係文書は、明治33年以降のものがかなり良好に残されている。中には、統合された日向小学校のものも含まれている。

(7) 佐沼小学校

日誌は大正9年度以降のものが残されている。実業補習学校の日誌も昭和5・7・9年度のもの残されている。

卒業台帳以外の学籍関係資料は見られなかったが、卒業台帳は明治36年度以降のものがかなり良好に残されている。

注目される資料として、昭和3年～13年度の職員会議録がある。今回の

登米市内学校資料調査の成果について

登米市内調査で他に類例が見られないだけでなく、これまで行ってきた県内の調査でも初見資料である。昭和初年の教育現場における教師側の記録、学校経営の実態を伝える資料として期待される。また、大正15年～昭和15年度に至る佐沼町教育会の「記録」も注目される資料である。

写真資料が豊富に残されていることも注目される。「朗読会」もしくは「校長考査」を撮影したものではないかと推測される、教育状況をとらえた写真も見られた。

統合された森小学校の資料は極めて少量しか残されていない。沿革誌は保存されていた。森小学校の旧校舎に残されていないか、小野寺学芸員に確かめていただいたが、残念ながら残されておらず、廃棄されたものと思われる。

(8) 宝江小学校

統合された新井田小学校の資料が保管されている。

日誌は、宝江小学校分が昭和29年以降、新井田小学校分が昭和28年度以降、保管されている。

戦前にさかのぼる資料としては、宝江小学校の修・卒業台帳、宝江小学校新井田分教場の学籍関係文書、および新井田小学校の旧職員履歴書がある。

沿革誌は両校の分が保管されている。

(9) 東郷小学校

今回調査したのは、「歴史的資料」として整理されていた書類箱のみであった。

日誌は、明治41・42年度の2冊と、昭和6年度から30年度のものを確認した。明治41・42年度の日誌は、学校名がそれぞれ本郷分教場、本地尋常小学校であり、「本地」の名称を含む資料はこの一点のみである。本郷分教

登米市内学校資料調査の成果について

場は、南方小学校本郷分教場と見え、また、別に南方小学校統合分教場の日誌もある。

学籍関係文書は、昭和16年次以降のものを確認した。

注目される資料として、昭和15年度以降の東郷小学校父母教師会（保護者を会を改名）の「記録簿」がある。戦前の保護者会、父母教師会の記録は貴重である。

(10) 登米小学校

登米小学校の資料は、登米教育歴史資料館と登米小学校に分かれて保管されている。

①登米教育歴史資料館

昭和40年代までの資料が登米小学校から移管されているようである。

日誌は、本校分が明治35年以降、昭和20年代まで保管されている。日根牛分校、羽沢分校の日誌も保管されており、羽沢分校の日誌は、閉校となった昭和40年度の方まで保管されている。日誌で注目されるのは、大正時代からの実科高等女学校、実科補習高等女学校、実業補習学校、充当実業補習学校、青年訓練所、青年学校など、青年教育に関する資料を多く残している点である。実業補習学校・青年訓練所が統合されて青年学校が誕生する経緯をよく知ることができる、貴重な資料群である。

学籍関係文書のうち、学籍簿は明治13年、卒業証書授与簿は明治12年のものがもっとも古く、非常に良好に残されている。

その他、戦時中の疎開受け入れに関する資料、戦前の夏休みの注意書など、多種・多量の資料が保管されている。

個人から寄贈されたと推定される資料も多く保管されている。修・卒業証書、成績表、賞状等、貴重な資料が多い。一部コピーも含まれるが、コピーでも貴重な資料がある。

登米市内学校資料調査の成果について

②登米小学校

校長室の金庫に保管されている資料を調査した。

日誌は、昭和30年以降のものが保管されていたが、昭和19年度の日誌もその中に発見された。教育資料館の調査では、昭和19年度は欠本となっていたので、今回の調査で、登米小学校に保管されていることが判明した。

旧職員資料（履歴書綴り）は、すべて登米小学校に保管されていることを確認した。

明治にさかのぼる資料も見られた。修業証書と呼ぶべきものである。もっとも古いものは明治8年のものであり、他も明治10年代で、学校創設期の貴重な資料である。個人から寄贈されたものと推測される。

(11) 豊里小学校

今回は、日誌保管棚のみ、調査した。恐らく校長室にその他の資料があるものと思われるが、今回は概況確認も行わなかった。日誌保管スペースに置かれていた、各種賞杯に付されていたと推測される木札も調査した。

日誌は、昭和初年度以降のもので、1点、大正12年度のものであった。分校（二ツ屋分教場・鶴波分教場・竹花分教場・十五貫分教場）の日誌がよく残っている。それぞれ独立後の日誌も保管されており、統合時に移管されたものと推測される。学校の変遷過程を知ることができる良好な資料と言えよう。

(12) 中津山小学校

日誌は、明治40年以降のものが、ほぼ欠けることなく良好に残っている。千貫分校の日誌は、昭和24年以降のものが残る。

学籍関係文書は、昭和18年次のものがもっとも古い。日誌に比べ、残りが悪いように思われる。

登米市内学校資料調査の成果について

創立期にさかのぼる資料が見えることが注目される。教職員名簿（明治6年以降）、寄附受付簿（明治9年以降）、寄附芳名簿（明治9年以降）がそれである。ただし、これらは創立当時の記録そのものではなく、後世の整理によって記述されたものである可能性が高い。しかし、原本ではないにせよ、記録としての価値は十分に認められるべきである。

(13) 錦織小学校

統合校の嵯峨立小学校の資料も引き継がれているが、すべてではなく一部が選択的に運びこまれたようである。日誌は、古いものとして昭和2・20・29年度のものがあるが、それに続くものはなく、平成15年度以降、統合した平成19年度のものまでが残るのみである。

錦織小学校の資料は良好に残されている。

日誌は、明治45年度のものをもっとも古いですが、これに続くものはなく、大正12年度以降の日誌が良好に残る。青年学校の日誌も昭和10年度から19年度までそろっており、昭和12年度は嵯峨立分校の分も残り、青年学校の実態を知る上の貴重な資料となるであろう。青年学校設置以降の日誌が完存している事例は少なく、登米教育資料館の青年教育資料と合わせると、その実態をかなり具体的に明らかにすることができるものと期待される。

錦織小学校の資料で特筆されるのは、学校一覧表である。明治43年から昭和20年に至る資料がほぼ完全にそろっており、学校規模の変遷を知ることができる。嵯峨立分教場の分も残っている点でさらに貴重である。登米教育資料館にも残されているが、保存年代の幅で錦織小学校が大きく上回っている。県内では、他に気仙沼市立大島小学校で確認している。

もう一点、明治38年から昭和23年に至る「視察簿」が残されていることも注目しておきたい。加賀野小学校の項でも述べた通り、両校の「視察簿」を合わせ見ることによって得られる知見が期待される。

登米市内小学校資料調査の成果について

なお、錦織幼稚園の昭和54年度から平成3年度までの日誌が保管されていることも指摘しておきたい。

(14) 西郷小学校

資料の点数は多くなかった。

日誌は、昭和32年を最も古いものとし、昭和38年度以降のものが継続して保管されていた。

戦前にさかのぼる資料は学籍関係資料で、それも最も古いものは昭和19年度のものであった。

文書資料ではないが、校庭に設置されている、昭和9年3月の年記を有する満洲・上海事変従軍記念碑は貴重な歴史資料である。

(15) 新田小学校

沿革誌は、統合前の第一・第二小学校のものが残っているが、その他に見るべき資料は残念ながら見いだせなかった。統合の折りに相当廃棄されたと考えざるを得ない。

日誌は、平成8年度のものがもっとも古く、それ以前のものは見られない。

歴史的資料としては、明治42年度以降の旧職員履歴書綴、大正9年度以降の修・卒業台帳があった。

(16) 米谷小学校

日誌は、本校分のほか、相川分教場、北方分校、楼台分校のものがある。

本校の日誌は、昭和2年度以降のものが良好に残る。相川分教場の日誌は、明治45年度のものがもっとも古く、大正5年度以降の日誌が良好に残る。北方分校・楼台分校は、ともに昭和30年度以降のものが残っている。

登米市内学校資料調査の成果について

学籍関係文書では、明治33年度以降の本校分学籍簿が良好に残り、修・卒業台帳も明治38年以降のものが残る。

注目される資料として、大正5年度以降の賞状授与台帳がある。また、昭和3～4年度の屋内体育場建設に関係する文書綴りは、昭和初年の学校施設充実の経緯を伝える資料として、またそれが当時としては珍しい屋内体育場施設であった点でも貴重な資料である。

そのほか、文書資料ではないが、青い目の人形と陶器製の伊達政宗像二体が保管されている。青い目の人形は、残念ながら日光にさらされたようで、着衣の色が抜けてしまった。陶器製の政宗像は、大正3年に宮城県から配布（実際は購入）されたもので、これまでも横山小学校、村田小学校、旧支倉小学校、大島小学校などで確認している。しかし、一校に二体保管されている事例は初見である。川崎小学校の分校であった本砂金分教場の日記には、青葉神社祭典の折、政宗像を拝礼させた記述が見え、分校にも置かれたことが判明している。恐らく、相川分教場にも政宗像が置かれ、統合の折、本校に移動したのであろう。

(17) 南方小学校

日記は昭和60年度のものが最も古く、それ以前のものはない。

しかし、学籍関係文書は、明治12年の学籍簿から継続的に、昭和20年に至るまで、非常に良好に残されている。

(18) 柳津小学校

日記保管庫のみ調査を行ったため、他にどのような資料があるかは不明とせざるを得ない。

戦前にさかのぼるものは昭和20年度の1冊のみであるが、これも5月17日から5月31日までのごくわずかな期間を残すのみである。この日記は、

登米市内小学校資料調査の成果について

全部手書きで線を引いたもので、仮日誌と呼ぶべきものである。昭和20年度日誌は、県から配布されることになったため、多くの学校で、県からの新日誌が到着するまで前年度の日誌を継続して利用し、用紙が不足すると補って使っていた。恐らく、この日誌も前年度の日誌用紙がなくなってから、県配布日誌が到着するまでの仮日誌として利用されたものであろう。

現存する日誌は昭和24年度以降のもので、昭和32年度から昭和50年度までの堂前分校の日誌も保管されている。

なお、津山町資料として刊行された『横山小学校日誌抜粋』が架蔵されている。本書のまえがきによれば、明治27年度から昭和20年度に至る日誌から抜粋したとあり、現在は失われた日誌の内容を知ることができる。横山小学校の項を参照されたい。

(19) 横山小学校

日誌は、明治28年度以降のものが残されている。明治期の日誌には表紙に号数が記されているが、現存の日誌は4・5・9・13～15号（明治43年度）で、欠失がある。『横山小学校日誌抜粋』と比較すると、明治27年度日誌がさらに失われたことが判明する。その他の欠失はないようである。明治41年度以降はほぼ完存しており、良好な保存を確認した。

学籍関係文書では、学籍簿は確認されなかったが、修・卒業証書授与台帳は明治28年度以降のものが残っている。また、旧職員の履歴書綴りは大正2年度以降のものが残る。

文書以外の資料として、米谷小学校の項で述べた伊達政宗像がある。

(20) 米岡小学校

資料室と校長室の金庫の調査を行った。

資料室では、おもに学籍関係文書と日誌の調査を行った。

登米市内学校資料調査の成果について

日誌は、戦前のものとしては昭和9・10・19・20年度のものがあるのみで、昭和21年度以降の日誌は昭和60年度まで欠失なく保存されていることを確認した。

学籍関係文書は、明治26年度以降の学籍簿が良好に残されている。賞状授与台帳も、明治38年度以降のものが継続的に昭和38年度に至るまで、残されている。

校長室の金庫に文書箱に整理されていた資料は、明治20年度の西野小学校のものをはじめとする修・卒業証書授与台帳、沿革誌、旧職員名簿・旧職員履歴書綴、100周年記念事業関係文書であった。

(2) 米川小学校

校長室・収納室・資料室の三ヶ所で調査を行った。

校長室には旧職員履歴書綴、学籍簿、修・卒業台帳などの学籍関係文書、平成元年度以降の日誌が保管されていた。このうち、旧職員履歴書は、明治6年の学校創設以来のものが良好に保存されている点で注目される。

収納室と資料室には、日誌のみ保管されている。

まず収納室には、昭和28年度から昭和45年度に至る上沢分校と米川小学校の日誌が収納されている。

次に資料室には、明治26年以降の日誌が保管されていた。明治期の日誌は、26年以外に35・44・45年度のものがある。大正3年度以降の日誌が継続的に残るが、昭和20年度までは若干の欠失があり、昭和24年度以降、ほぼ完存している。

他校の調査中、米川小学校に統合された鱒淵小学校から、重要な文書が米川小学校に運びこまれたという情報を得たが、鱒淵小学校の資料は、校長室で修・卒業台帳ほか数点を確認したにすぎない。米川小学校に運び込まれた後、廃棄されたようである。

(2) 米山東小学校

統合された善王寺小学校と桜岡小学校の資料が保管されている。

まず桜岡小学校の資料を概観する。

日誌は、明治28年がもっとも古い。しかし、明治のものは他に32・43年度の2年度分のみである。大正2年度以降、昭和20年度までは、およそ三分の一程度が欠失している。昭和21年度以降は良好に残っている。

学籍関係文書では、明治17年度以降の卒業証書授与台帳、明治20年代からの学籍簿が良好に残っている。明治期の資料には、吉田小学校のものも少なくない。

旧職員履歴書綴は、明治37年以降のものからかなり良好に残る。

次に善王寺小学校の資料は、全体的にみると桜岡小学校より少ない。

日誌は、大正6年度以降のものが残るが、昭和22年度までの昭和期の日誌は、昭和14年度1冊しかない。昭和23年度以降は、若干の欠失はあるものの、良好に保存されている。

学籍関係文書は、明治期のものから残されているが、その量は桜岡小学校に比べてかなり少ないと言わざるを得ない。

旧職員履歴書もあるが、戦後のものである。

以上、各小学校の資料残存状況を概観してきたが、戦前にさかのぼる、さらには明治期にまでさかのぼる資料を有する学校が多く存在することが明らかになった。登米教育資料館を見て予想した通り、明治期にさかのぼる日誌を保管する学校がかなり多く存在することが確認できたことは大きな成果であった。

日誌の保存状況は悪くても、旧職員履歴書綴、学籍関係文書は良好に保存しているという学校も少なくなかった。逆に、歴史的資料をほとんど失っている学校は、皆無とはいえないが、非常に少なかった。旧職員履歴書、学籍

登米市内中学校資料調査の成果について

関係文書は個人情報の集合体であるが、使い方を誤らなければ、貴重な歴史的情報として生かすことができる。

なお、当然のことではあるが、どの学校にも沿革誌(史)は備わっていた。統合を繰り返し、日誌・学籍関係文書などの資料を失っていても、沿革誌だけは保存しているという学校もあったことを報告しておく。

概して、登米市内の小学校は貴重な歴史資料をそれぞれに保管していると言っただけであろう。

(三) 登米市内中学校の調査成果

登米市内10校の中学校のうち、調査を実施できた学校は6校であった。残り4校のうち、1校は資料がないからと調査を断られ、残り3校は現在、連絡待ちの状態である。以下、調査を実施した学校について、概要を述べることとする。

中学校は、そのほとんどが、戦後の学制改革により昭和22年に誕生した。従って、戦前にさかのぼる資料が存在することは常識的に言えば考えられないことではあるが、国民学校高等科から中学校に切り替わる時、あるいは、小学校に併設されていた青年学校が廃止される時、その関連文書が小学校から新制中学校に移管されることがあることが、これまでの他市町の調査でわかってきた。そこで、登米市内で初めて、中学校の調査を試みたのであるが、やはり予想していた通り、戦前の資料を保管する学校があることを確認できたことは、今回の調査の大きな成果と言えよう。

(1) 佐沼中学校

提示された資料のみ調査した。日誌、学籍関係文書の保管状況は全くわからない。

校舎建設関係、校歌制定関係の資料が一括保管されていた。

登米市内中学校資料調査の成果について

昭和30年から47年に至る迫少年消防クラブの関係資料が注目される。

(2) 津山中学校

古い資料がほとんど残っていないということで、示された15点の資料の目録を作成した。

新制中学校設立以降の卒業台帳、旧職員履歴書綴があった。

(3) 豊里中学校

豊里小学校と同じく、日誌保管棚のみ調査した。昭和31年度以降、平成9年度までの日誌の存在を確認した。

(4) 中田中学校

中田中学校は、宝江中学校・上沼中学校・石森中学校・北上中学校を統合して開校した。

資料保管室のみ調査を行ったが、宝江中学校・石森中学校の昭和22年度以降の日誌、上沼中学校の昭和23年度以降の日誌が良好に保管されていた。新制中学校の設立以来の実態を伝える貴重な資料である。特に石森中学校の昭和22年度日誌は、石森青年学校の名称が石森中学校に並んで記されており、成立期の状況をよく伝えている。

日誌以外の資料としては、北上中学校・中田中学校の各科備品台帳があった。

(5) 新田中学校

日誌は、平成8年度以降のものしか残っていなかった。

学籍関係文書では、新制中学校発足以来の卒業証書授与台帳が保管されていた。また、旧職員の履歴書綴も、創設以来のものが残されている。

登米市内中学校資料調査の成果について

注目されるのは、青年学校の修業証書授与台帳が保管されていることである。新制中学校が青年学校の役割を受け継ぐものと認識されたことをよく示している。

(6) 南方中学校

創設された昭和22年度以降の備品台帳が保管されている。

これに対し、日誌は、昭和25年度のものが中学校の日誌としては最も古く、表紙に「第一号」と記されている。備品台帳が昭和22年度から始まることと矛盾するようであるが、表紙には「南方中学校新校舎」とあり、校舎を改めての第一号日誌という意味で「第一号」と記されたものと推測される。

注目されるのは、大正元年度以降の農業補習学校の卒業証書授与台帳、および昭和14年度以降の南方村青年学校東郷分校・西郷分校の日誌が保管されていることである。新田中学校の事例と同じく、新制中学校発足と同時に、青年学校が併設されていた小学校、南方小学校から移管されたものであろう。南方小学校は、古い学校日誌を失っていた。南方村青年学校の日誌が残ったのは、小学校から中学校に移管された結果ということになる。

なお、資料室で埃をかぶっている状態にあったため、中性紙製の封筒に入れ、保存箱に収納する作業を行った。

中学校では、新田中学校を除いて、提示された資料のみの調査を行った。小学校に比べて学校資料の管理体制の強さを感じた。そのため、中学校にどのような資料が存在するか、全容を知ることができなかった。

極めて限られた範囲での調査しかできなかったが、それでも、2校の資料に青年学校関係の資料があることを発見できたことは大きな成果と言えよう。中田中学校に、新制中学創設以来の三校分の学校日誌が保管されていることを確認できたことも、重要な発見であった。

(四) 登米市内学校資料保存の課題

今回の調査で登米市内の小・中学校に貴重な歴史資料，地域史資料，教育史資料が保管されている事実を確認し，目録および本報告書によって具体的に示すことができたと思う。この貴重な資料を将来に伝えていくことこそが，この調査の目的とするところである。以下，調査を通じて感じた問題点とその解決方法について，若干の提言を行いたい。

①資料残存状況の学校差とその原因

各学校の資料残存状況にばらつきがあることは，これまでの各学校の概況報告に明らかである。では，なぜこのような学校差が生じることになったのであろうか。

学校資料が失われる大きな原因の一つに，自然災害・事故による校舎の損壊に伴う資料の喪失がある。東日本大震災によって誘発された津波被災はその典型であるが，一般的には火災が資料焼失の最大の原因となる。しかし，今回の調査では，災害による校舎の損壊が資料喪失を招いた事例は確認されなかった。登米市における資料残存状況の学校差は，人為的原因によるものと考えざるを得ない。

第一に考えられるのが，校舎の改築に伴う「整理」である。新校舎に移る際，不用品の「整理」が行われ，古い資料が廃棄される例は，登米市でも相当あったものと考えられる。

次に考えられるのが，統廃合である。統合先に十分な文書保管スペースがなく，閉校する学校の資料が選択されるケースは登米市でも多く見受けられた。最近では，佐沼小学校に統合された森小学校の資料がほとんど失われた事例をあげることができる。また，閉校になる学校側が，学校の歴史を伝える資料を選んで統合先に送っても，受入側で処分してしまったというケースもあった。鱒淵小学校の事例である。あるいは，統合して新校舎で出発しよ

登米市内学校資料調査の成果について

うとするとき、両校の資料を均等に処分して「新たな歴史」の出発を図ったのではないかと思わざるを得ない事例もあった。新田小学校にはその可能性が感じられた。

しかし一方で、閉校となる学校の資料を積極的に受け入れて来た学校も少なからず存在する。分校の資料を多く保管する学校として石越小学校・登米小学校・豊里小学校・米谷小学校などがある。また、複数の学校を統合しながら、そのすべての学校資料を保管しているのが中田中学校である。このような対応の違いは、やはりその場に居合わせた教職員、それも管理的立場にある校長・教頭、なかんずく校長の意識によると推測せざるを得ない。

第三に考えられるのが、保存スペースの問題である。増え続ける文書資料の保管場所がなく、定期的に資料の廃棄を行っている事例は一般的といえる。特に、毎年、20～30冊作り続けられている文書綴りは、そのほとんどが保存年限とともに廃棄されている。そのため、学校によっては、古い歴史的資料はあるのに、最近10年前の資料はほとんど残っていないという学校も珍しくない。

第四に考えられるのが、右にあげた文書保存年限規定と個人情報保護法である。学校管理をゆだねられている校長にとって、法律を遵守し、職務に忠実であろうとすると、あるはずのない資料が残っている状況は、あってはならないことである。そこに心理的負担を感じている校長が多いことを今回の調査でも確認することとなった。現状で、古い資料を多く残す学校でも、積極的に残そうとしたのではなく、前の校長も手をつけなかった資料なので、二、三年の在任中にそれに手をつけることはためられると見過ごされ、たまたま存続し続けているというケースが多いように思われる。一方で、資料の重要性を感じた校長が整理をして手厚い措置を行い、保存し続けなければならないという状況を作り出してくれたおかげで、後任の校長が廃棄に踏み切れなかったのであろうと推測される学校も複数あった。

登米市内学校資料調査の成果について

総じて、資料が失われていく契機としては、校舎改築、統廃合などがあげられるが、従来多かった保存スペースの狭小という物理的問題は、少子化の進展による空き教室の増加で除去されつつある。従って、資料喪失の主要な原因は、学校管理者である校長の認識に多くあると言わざるを得ない。その背景に文書保存年限規定と個人情報保護法があることを再び指摘しなければならない。この二つは、管理職に大きな心理的負担を与え、学校にとって本来財産となるべき貴重な資料群を、厄介ものに変じさせる「原動力」となる可能性を内包している。現在多く保存されている資料群が、ある日突然姿を消すことは、あってもおかしくないことと認識しなければならない。つまるところ、資料が残り続けるか消失するかということは、その資料の管理を職務として行う人、学校においては校長の「判断」にかかっており、その「判断」は資料に対する校長の「認識」によるという、個人的レベルの問題であるということになる。しかし、完全に個人の理解水準によるものではなく、その基底に文書保存年限と個人情報保護法という制度が存在していることを強く認識する必要がある。今後も資料を保存し続けていくためには、この二つの制度を前提に方策を考える必要がある。

②学校資料の保存のために

では、学校資料を今後どのように保存していけばよいのであろうか。

まず行わねばならないことは、学校資料が貴重な歴史資料であること、学区の地域史資料として重要なものであることを周知させる必要がある。残す必要は、一握りの研究者のためでなく、学校を核に築かれている、学区という地域社会に暮らす方々のためにあることを広く知ってもらふ必要がある。たとえ学校が閉校になっても、学区は存続し続ける。地域の歴史が、学校に保管されていた資料の中に生き続けていることを知っていただくことは、その地域に暮らす方々の心の豊かさを支える力となるであろう。学校は地域の記憶装置であり、学校資料は地域の財産であることを知っていただくことが

登米市内学校資料調査の成果について

必要である。

では、どのような資料が歴史資料として重要と認識されるべきか。この点こそ、資料の管理的立場にある校長に理解していただかなければならない問題である。学校資料で最も危うい立場にあるのが、個人情報そのものというべき、学籍関係の資料である。なかでも学籍簿と戦後学籍簿にかわって作成されている指導要録は最も廃棄の可能性が高い資料である。ともに学業成績、性格という個人の人権にかかわる記録を主要記述としており、学校が最も保管に神経を使う資料である。現在でも、明治期の学籍簿がシュレッターにかけられることは珍しいことではない。明治期以来、指導要録にかわるまで作られ続けた学籍簿は、現在の指導要録には記されない様々な記述を含んでいる。その記述の中には、地域の社会構造、産業構造にかかわる情報も含まれ、古い戸籍が役場に残されていない場合、その代替資料として利用され得るものである。しかし、その記述には、出自にかかわる、個人の人権に深くかかわる記述も多く、専門研究者といえども、その扱いは高い倫理性が求められる資料であることもまた認識されねばならない。

一方、指導要録には学籍簿ほどの歴史資料的価値があるとは言いかねるが、指導要録がなくなると、その学校に学んだ人々の記録としては、ただ卒業台帳という、人名の羅列資料が残るだけとなる。対して、その学校に勤務した教員の記録は、ほとんどすべての学校に「旧職員履歴書綴」が保管されており、創設期にさかのぼる資料が含まれることもまれではない。それらは今後も廃棄されることなく大切に保管され続けていくであろう。職員の詳細な記録は残されても、同じ学校で、学んだ立場の人々についてはただ名前しか残らないということでのよいのであろうか。では、職員の記録も廃棄すれば公平になるかと言われれば、それは違う。学校は、学ぶ者と教える者、それを支える様々な仕事を行う者によって、営まれている。その営みが、氏名だけで置き換えられてよいのであろうか、その営みは、氏名だけで置き換えら

登米市内学校資料調査の成果について

れるものであろうか。

指導要録は厳重な管理が求められ、校長室の金庫に保管され、金庫を開ける鍵自体が厳重な管理下に置かれている。しかし、金庫の収納力は限られており、金庫自体が高価な設備であるため、古いものから金庫からはみ出し、金庫の上に積み重ねられたり、資料室に移されている事例も珍しいことではない。そうしてでも廃棄できない背景には、卒業証書授与台帳だけでは代替できない児童・生徒の大切な記録という意識が働いているものと推測される。残し方さえ工夫すれば、廃棄せずに保存することは可能ではないだろうか。

学校資料の中で最も個人情報として扱いを慎重にしなければならない学籍簿・指導要録について述べたが、現在も日々生産され続けている膨大な現用文書類も、どの学校にもあるものだからと廃棄され続けていくと、どこにも何も残っていないという状況が生み出されかねない。50年前、100年前の資料はよく残っているのに、10年前のことがほとんど分からないという事態は決してあり得ないことではなく、むしろ当然起り得べき現象と認識すべきであろう。ただ、歴史的資料と非現用化していく現在の学校資料を同列に扱うことは、問題をいたずらに複雑化することになりかねないし、今回の調査では、現用文書類の扱いについては調査対象としていないので、そういう問題点があることを指摘するにとどめておく。

では、どのように学校資料を保存すればよいのか、どのように保存することが可能であるのか。県内には、学校の統廃合を機に、学校が不要とした資料を地域の資料管理施設が一括して引き取った村田町のような事例がある。しかし、その村田町でも、震災被害によって個人の家から排出された様々な資料の保管場所に困難をきたしており、一般的に考えても、地域の資料館、登米市では登米市歴史博物館で学校資料を一括保管することは物理的に困難と言わざるを得ないであろう。

登米市内学校資料調査の成果について

そこで提案したいのが、統合で閉校になる学校施設の利用である。校舎全部でなく、一教室でも二教室でも学校教育資料センターとして、学校内に置けなくなった資料を受け入れ、保管するという方法である。教室全体を金庫に見立て、厳重に管理することで安心して預けられる状況を作り出すことにより、「あるはずのないものがある」という心理的負担、「大切なことはわかるが、そのままにしておいては規定に反する、しかし捨てるにしのびない」という葛藤から校長を解放することができるであろう。まず、そうして現在、様々な偶然によって伝えられてきた資料の落ち着き先を確保することが必要である。一度失われたものを取り戻すことはできない。

そうして資料の安住先を確保したうえで、使い方を時間をかけて考えればよいのではないだろうか。ただ、保管しておけば良いということではない。使って初めて、学区の方々にその価値と意味を理解していただき、学校資料が残っていることを喜んでいただけるであろう。保存し、使い方を考え、その上で使い（研究し）、その成果を公開する、この三段階で考えていけばよい。すべてを現段階で解決する必要はないし、またできることではない。

当面する課題は、たまたま残ってくれている資料群をこれ以上減らさない方策を考え、実行に移すことであると考える。

<註>

(1) 教育長宛文書は以下の通りである。

拜啓

新年度が始まり、ご多忙の日々をお過ごしのことと拝察申し上げます。

突然、文書をもってご挨拶申し上げる無礼をお許しください。

私ども宮城学院女子大学人間文化学科大平ゼミナールでは、アジア・太平洋戦争期の教育実態解明をゼミの研究課題の一つとして、2000年より県内の調査・研究活動を行ってきました。初めは、中等学校（旧制中学校・高等女学校）の「学徒勤労動員」を中心に取り組んでまいりましたが、2009年度からは、小学校の資料調

登米市内学校資料調査の成果について

査に重点を移しております。小学校は、公民館・コミュニティセンターが普及する以前は地域の文化施設としての役割を果たしておりました。戦前は特に地域とのつながりが強く、地域の様々な集會が開かれるほか、映画會、生活改善講習會などが行われ、また、出征兵士の見送り、戦死者の町村葬などが行われる場でもありました。「学校日誌」にはそうした地域の日々の様子が記されており、「学校資料は地域の記憶遺産」、「学校は地域の記憶装置」という思いを強くしております。

各市町村のご理解を賜り、おもに昭和14年度から21年度までの「学校日誌」の調査（デジタルカメラによる日誌の全頁撮影）を実施してまいりました。調査させていただいた学校には、その成果（日誌記述の抜粋データ）と、所蔵されている歴史的資料の目録も合わせて作製し、お届けしてまいりました。

調査に取り組み始めてしばらくしてから、新聞紙上で小学校の統廃合が急速に進められていることを知り、貴重な資料が統廃合によって失われる危険性を強く感じるようになりました。そこで、各自治体の教育委員会を訪問し、学生の実践的教育も兼ね、学校資料の保全のお手伝いをさせていただけるようお願いし、実施してまいりました。村田町・川崎町・涌谷町では、統廃合になる学校だけでなく、町内のすべての小学校で所蔵資料目録作成・保全作業を行いました。

御市におきましても、昨年、登米町の教育資料館の資料保管改善作業と目録の再整理、及び日誌資料のデジタル記録化を行い、生涯学習課、また、振興会社にお届けいたしました。市内の学校の資料調査はまだお願いしたことがありませんでした。

今年度、是非、御市で小学校・中学校の資料所在調査と日誌の調査を行わせていただきたく、お願いする次第です。各学校の資料目録は、御市にとって、今後、市史・教育史等をおまとめになる時、基礎的資料になると考えられます。

本ゼミで行っている保全作業は、以下の通りです。

①学校資料の目録作成

調査校では、基本的に資料の内容が分かるような範囲での全資料の撮影（おもに簿冊の表紙撮影）を行い、大学に戻って資料目録を作成します。

②資料の保全作業

ご希望により、文書保存用の専用中性紙封筒・保存箱への収納を行います。

合わせて、ゼミの研究課題であるアジア・太平洋戦争期の資料の調査を行わせていただきたいと思っております。調査成果は、画像資料も含め、すべてお届け申し上げます。

登米市内学校資料調査の成果について

す。

作業に必要な機材、資材はすべて当方で用意し、経済的ご負担は一切おかけいたしません。実際の作業は、本ゼミの学生が資料調査実習の一環として行わせていただきます。登米市歴史博物館の資料調査事業のお手伝いとしてお考えいただければ幸いです。地域の記憶を未来に伝えるためのお手伝いをさせていただきたいと思っております。

なにとぞ、ご検討くださいますようお願い申し上げます。

末筆ながら、御市のますますのご発展をお祈り申し上げます。

敬具

(2) 校長会で配布した文書は以下の通りである。

学校ご所蔵資料の所在調査・保全作業について

本ゼミナールでは、アジア・太平洋戦争期の教育実態解明を一つの課題として、2000年より宮城県内を中心に、調査・研究を行ってきました。初めは、中等学校(旧制中学校・高等女学校)の「学徒勤労動員」を中心に組み立てまいりましたが、2007年度からは、小学校の資料調査に重点を移しております。

小学校は、公民館・コミュニティセンターが普及する以前は地域の文化施設として機能しておりました。戦前は特に地域とのつながりが強く、地域の様々な集会在開かれるほか、映画会、生活改善講習会などが行われ、また、出征兵士の見送り、戦死者の町村葬などが行われる場でもありました。

また、中学校は戦後に誕生した学校ですが、すでに昭和30年代の記憶が歴史的に回顧されるようになっております。それだけでなく、戦時中・戦前の青年学校の資料を引き継いでいることがあることも、私どもの調査でわかってきました。戦後生まれの中学校に戦時中・戦前の資料がある可能性もあります。

学校ご所蔵の資料の中でも、特に「学校日誌」には地域の日々の様子が記されており、「学校資料は地域の記憶遺産」、「学校は地域の記憶装置」という思いを強くしております。

登米市内の小学校に明治以来のさまざまな資料が残されていることを聞き及んでおりました。この度、登米市教育委員会教育長先生に、各学校に保存されている地域の貴重な歴史資料の所在調査をご提案申しあげ、お許しを頂くことができました。登米市歴史博物館と協力して、資料所在調査を行ってまいりたいと考えております。

登米市内学校資料調査の成果について

調査は次のように行います。

①学校資料の目録作成

各学校にどのような資料が保管されているかを把握できるよう、資料目録を作成致します。この金庫、この文書棚とご指定いただいた場所ごとに目録を作成いたします。

作業は次のような手順で行います。

基本的に資料の表紙を撮影していきます。個人情報の保護には細心の注意を払います。目録がとれるように撮影いたしますので、たとえば学籍簿などは、年度がわかる範囲で表紙、中表紙を撮影し、学籍簿の内部そのものを撮影することはいたしません。

撮影画像をもとに、大学にもどってから、目録を作成いたします。

②資料調査

私のゼミでは、昭和14年から昭和21年の間の「学校日誌」の分析を進めています。この時期の「学校日誌」は、全頁の撮影をさせていただきたいと思っております。画像をもとに、日誌記述の全文データベース（日誌抜粋等）を作成し、研究に使わせていただきます。

③資料のお届け

作製した目録はもちろんですが、目録作成のための画像データ、また、研究のために撮影した画像データ、及び日誌抜粋等もすべて、整理終了後に各学校、登米市歴史博物館にお届けいたします。

④資料の保全作業

文書保存用の専用中性紙封筒・保存箱を用意しておりますので、ご希望があれば、収納、保全作業を行います。

作業に必要な機材、資材はすべて当方で用意し、経済的ご負担は一切おかけいたしません。登米市内各地域の記憶を未来に伝えるためのお手伝いをさせていただきたいと思っております。作業には、私と学生（最大4名程度）が行います。作業場として、空き教室などを利用させていただければ幸いです。なにとぞ、ご理解、ご協力賜われますよう、お願い申し上げます。

登米市内中学校資料調査の成果について

(3) 教育長宛送付した文書は以下の通りである。

登米市登米町教育資料館所蔵資料の調査と整理について

(お願い)

突然、文書をもってお願いする失礼をお許しください。

私は、宮城学院女子大学人間文化学科で日本史を担当している教員です。専門は日本古代史ですが、2000年度より、本学の前身、宮城女学校（宮城高等女学校）の戦時中の歴史調査を始めて以来、戦時中の宮城県内の中等学校（中学校・高等女学校）について、「学徒勤労動員」を中心に、学生と共に調査・研究を進めております。さらに2009年度より、小学校の資料調査を始めました。

明治6年の学制発布以来、小学校はまさに地域の教育・文化施設として存在し続けており、小学校の資料は、地域の近・現代史資料として非常に重要であることを認識してまいりました。特に、学校日誌は、日々の地域の様子を伝えてくれる重要な資料であります。

ところが最近では、いわゆる「平成の大合併」の結果として、小・中学校の統廃合が進められ、資料の消失の危険が高くなっております。この状況を座視することができず、これまで、気仙沼市・白石市・村田町・川崎町・涌谷町・栗原市の各教育委員会のご理解、ご協力のもと、小学校の資料の所在調査・目録作成を実施してまいりました。合わせて、ゼミの研究課題である戦時中の教育実態にかかわる資料のデジタルカメラ撮影による調査を行わせていただいております。教育委員会及びご協力いただいた学校には、作成した資料目録等をお届けしております。

本日、小学校の日誌をもとに卒業論文をまとめた学生と共に、貴市登米町の教育資料館を見学させていただき、二階教室で明治以来の登米小学校学校日誌が展示されていること、その中には戦時中の日誌も含まれていることを知りました。学校日誌以外にも、他の学校では目にすることのできなかつた貴重な資料が多数展示されていることに驚かされました。しかし、その一方で、展示による資料の劣化も認識せざるをえませんでした。

そこで、さしでがましいとは思いましたが、見学後、管理者であるとよま振興公社を訪問し、日誌の調査と所蔵資料の整理・目録作成作業の協力についてお話したところ、教育委員会の了承が必要であるとお話をいただきました。そこで教育委員会にご連絡いただき、生涯学習課課長様、文化財保護係係長様に趣旨をご説明申し上げ、教育資料館所蔵資料につて、①日誌をはじめとする戦間期資料のデジタ

登米市内学校資料調査の成果について

ルカメラ撮影による調査と、②所蔵資料の整理・目録作成、合わせて展示改善のお手伝いをさせていただきたいことを申し上げました。

課長様・係長様より、教育長様への文書によるご説明をご指示いただき、本文書をお届けする次第です。

①につきましては、個人情報の保護に細心の注意を払い、研究成果を公表する場合には、村長・校長等、公的地位にある方々を除き、個人の特定に至る可能性を排除いたしますことをお約束いたします。

②につきましては、必要な資材は当方で用意し、貴市およびとよま振興公社に一切の経済的ご負担を求めることはいたしません。

なお、作業にあたりましては、貴教育委員会・とよま振興公社のご指示に従って進めます。

教育資料館は、登米町の貴重な文化遺産であり、観光資源としても重要な施設です。来館者に明治～昭和の雰囲気味わっていただき、所蔵資料の貴重さをご理解いただけるようにするためのお手伝いを、少しでもさせていただきたいと思えます。学生にとっては、研究素材をご提供いただけるだけでなく、資料の整理作業を通じ、歴史資料の扱いを実際に学ぶまたとない機会となります。また、展示改善を考えることは、学芸員課程の学生にとって、実践的な貴重な学習経験となります。

是非、ご理解賜り、お許しいただけますようお願い申し上げます。

末筆ながら、貴市のますますのご発展をお祈り申し上げます。